

やったね!! 議会改革

とうとう実現 来年4月から

これまでは
政令市17市中、委員会の傍聴ができないのは、千葉市だけ!



議員報酬のほかに
政務調査費や費用弁償がでている



これからは
ガラス張り



*政務調査費1円から領収書添付
*費用弁償の廃止
*常任委員会の公開
この決定を受け、先ず浮かんだのは「継続は力なり」でした。

市民ネットを立ち上げ、議会に議員を送った16年前。政務調査費が月に30万も出ること、その報告に領収書もいらないことへの驚き。使わなかった「政務調査費」を返還したのは市民ネットが最初でした。

また、議員の仕事である議会出席に費用弁償として1日8千円も支給される不思議さ。

さらに、市議会にかけられる議案や請願・陳情などの肝心な議論・検討は本会議前の委員会です。それは非公開であること。市民が傍聴できる議会では、すでに決まりきったことの確認だけである不合理さ…。

こんなことを「おかしい!!」と声を上げたのは普通のおばさん?だった市民ネットワークの議員だけという当時を思い出します。

「ガラス張りの議会」への実現にやっと少し前進です。これからも粘り強く、市民参加と情報公開を求め、市民に分かりやすい千葉市をつくっていきます。みんなで、議会や委員会の傍聴に行きましょう!

10月10日に閉会した9月県議会では、18名の議員が一般質問した。驚いたのは来年度予算をにらんで



史跡指定の聲が高まる土気城址にて 9.23

あわせて約3400km、道路の寿命は20年と言われ、これら既存の

本来、道路予算で第一に優先すべきは交通安全の確保である。現在、千葉県が管理している道路は国道798km、県道2581kmで

多数派が水面下の「事前調整」を行っている議会を、オープンな場での議論によって物事を決める場とする議会改革が急務である。

折しも、片山・前鳥取県知事の「地方議会は八百長と学芸会」発言が波紋を広げている。首長と議会が波紋を広げている。首長と議会が波紋を広げている。首長と議会が波紋を広げている。

県議会報告

シリーズ 何をやっている? 県議会②

県議会を「八百長と学芸会」の場にするな!

県議会議員 川本 幸立

質問者の出身地域の道路建設推進を求める要望が数多く出されたことである。道路の数にすると数十に

道路を良好に保つためには年間約100億円が必要とされる。しかし、新たな道路建設、それも、県都1時間構想」に基づく、高規格道路「事業を優先するため、今年度の修繕予算は39億円しかない。高規格道路の整備はアクアライン」などをみても、通過交通の増加と「スロー効果」により、逆に地域の疲弊を加速させる可能性が高い。

市議会報告

ついに赤字決算!税金は何に使われたの? 市民ネットは18年度一般会計決算に反対

市議会議員 湯浅美和子

全国自治体の財政状況を比較する普通会計で、ついに赤字決算。政令市移行後の基盤整備・大型公共事業の財政負担が大きいのしかかります。ここ数年は基金からの借入れなどでしのいでいましたが、それも底をつきました。

意識の欠如を露呈。市民ネット提出の、公共建築物の耐震化に充分な予算措置を講ずるよう求める意見書「全会一致」で採択。国に送付されることに。

9月議会では耐震診断結果を長年放置してきたことを問題視。市は危機管理

現象、常任委員会の決定をどう判断するのか、問題あり。

映画「六ヶ所村ラプソディー」を千葉でやりたい!という想い

ちば六ヶ所村ラプソディー上映実行委員会 山本 勇樹

去る8月26日、千葉市では初めての、映画「六ヶ所村ラプソディー」の上映会を開催致しました。この映画の上映はほとんどが都内で、千葉県下ではたった2回。全国200カ所以上で上映されているのに、千葉県下ではあまりにも少ないと思えました。ぜひ、地元千葉でも観てもらいたい」と上映を

ごく一部の人たちだけが問題にしているのは変だ!まったく興味の無い人にこそ知らせたい話だし、上映会だってまったくのシロウトがやっていいじゃないか!」と思い、素人丸出しの上映会を開催しました。

私は専門家でもなく、この問題「使用済み核燃料の再処理」に関して「つい最近まで知りもしなかった者です。ですがどう考えても、この話は専門家や関心のある

でもだからこそ、全く知らなかった方もたくさん来てもらう事もできました。だからこそ、人とのつながりがとても大きな力になりました。人と人とのつながりこそが、六ヶ所村などの問題解決への大きな力だと感じる事ができました。

食の安全を脅かす核燃料再処理

青森県下北半島の六ヶ所再処理工場は、原発で燃やした使用済み燃料の中からプルトニウムを取り出す工場です。普通の原発でプルトニウムを利用するプルスールマルが計画されましたが、ウランを燃やす施設でプルトニウムを燃やす危険性への不安から地元で反対の声が強くなり計画はストップしています。プルトニウムは原爆の原料にもなり、猛毒の物質で管理が非常に困難なため、世界各国は既に再処理事業から撤退し、唯一日本が進めているのです。

再処理工場は環境汚染源! 再処理では多くの放射性物質が排出されます。排気筒からは気体状放射性物質が大気中に放出され、六ヶ所村沖合3キロメートルの海洋放射管の放出口からはあらゆる種類の放射性物質が廃液に混ざって海に捨てられます。

銚子の秋刀魚は大丈夫? 太平洋沿岸は漁場が多く、三陸沿岸はわかめの養殖なども盛んで、漁協でも反対運動に取り組んでいます。青森からの日本海流は銚子付近で黒潮とぶつかります。海が汚染されれば、食物連鎖で最終的に人間が濃縮された放射能を体内に取り込むこととなります。遠い青森の問題と言っていられない問題なのです。

だから、再処理工場はストップしなければなりません。今ならまだ間に合うかもしれません。署名活動など出来ることから取り組んでください。署名用紙は各ネットの事務所にあります。 政策室・竹内

